

2023年6月25日(日) / 説教者：國分美生

説教：「ミルク世チュクラノウチスリティ」

聖書：マタイによる福音書28：16～20

6月23日、米須の魂魄の塔横で「国際反戦沖縄集会」が持たれました。高江、辺野古の海上行動チーム、在沖縄ミャンマー人会、そして韓国からも参加がありメッセージが発信されました。野嵩ゲート前でゴスペルを歌う会も参加し「ミルク世チュクラノウチスリティ」を歌いました。この讃美歌に共感する人も多く、会場からも、来年は歌詞を配布してほしい、との声もありました。ゲート前ゴスペルは、シュプレヒコールではなく讃美歌で訴えることを続けてきました。米兵たちに、私たちもあなたたちと同じ人間だ。おんなじ命、人間がここに生きているということを忘れないでほしい、と。「ミルク世チュクラノウチスリティ」の歌詞にはこうあります。「痛みを分かち合う時に人は、世界は癒される。痛みを分かち合う時に人は、世界は結ばれる」「泣くものと共に泣き、喜ぶものと共に喜ぼう。」そこで「新しい世界が生まれる。みんなで一緒に平和な世をつくろう」。

イエスのみ言葉に共感して付き従っていった者たちは、イエスの十字架での惨い死を目にして希望を失ったでしょう。イエスが十字架につけられたという事実は、つまりこの世界が「平和」であっては困る人たちがいるのだということに改めて気づかされます。しかし、イエスとそのみことばは葬り去られたのではなく、復活しました。

弟子たちはイエスと共に宣教を始めた地、ガリラヤに戻ります。その場所から再び歩みだします。そこには彼らの希望であるイエスさまがおられました。イエスはそこから弟子たちを全世界に派遣します。「あなた方に命じておいたことをすべて守るように教えなさい」それはすべての人が神の平和づくりに参与するように呼びかけられているのだということ。すべての人の命と生活が守られる世界＝平和を目指して、みんなが一つになっていくということです。

誰かと出会ったとき「イエスさまが」「教会が」と言葉に出さなくても、自分の内側からキリストの希望がにじみだして、平和を伝えるために用いてくださっているのかな、と感じるうれしい経験がきっとあると思います。私たちがこの教会から派遣されて日々の生活を、キリストと共に歩むとき、それは自然に伝道となるのでしょうか。もちろんそこに言葉や行動が伴うと、さらに平和を共に作っていく仲間と出会う機会が増えることでしょう。

「ミルク世チュクラノウチスリティ」。皆様の1週間がキリストとともに良い旅でありますように。(國分美生)